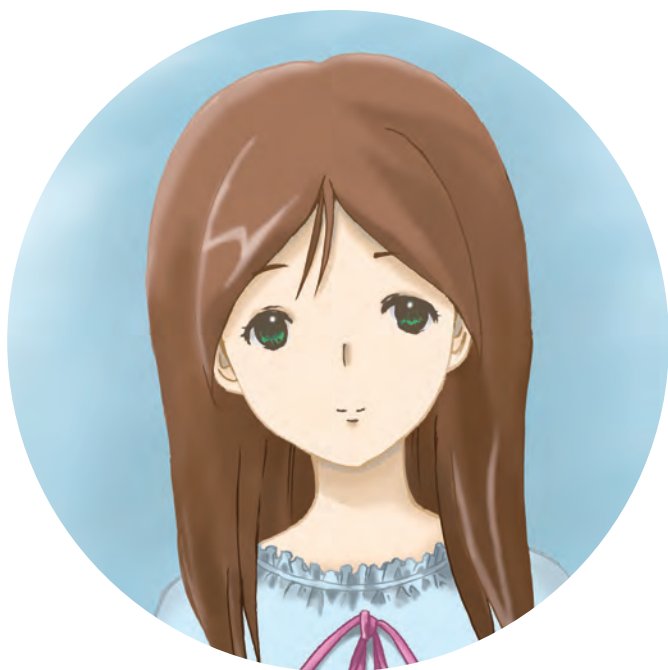



第一話

頬の引っ掻き傷



A vertical illustration on the left side of the page. At the top, there is a window with a grey frame and a white pane. Below the window is a green horizontal band. At the bottom, there is a brown wooden chair with vertical slats. The background is a light tan color.

アメリカのボストン市のF・G氏は商用で西部へ旅行しました。ホテルで、明日の仕事のための注文書を書いていました。窓からは光が射し、明るい白昼でした。フト、誰かが近くに居る気がして、そちらの方を振り向いたら、何と九年前にコレラで亡くなった妹が立っています。びっくりして、妹の名前を呼びながら立ち上がったら、フーツと姿が消えました。

オヤ、夢だったかと思ったのですが、イイエ、口には葉巻をくわえていて、手にはペンを持っています。書きかけの書類のインクはまだ乾いていません。(現実です。)自分がハッキリ目覚めていて、妹の姿をハッキリ見たのでした。





余りにこの妹の出現が不思議だったの
で、F・G氏は急遽旅程を変更し、家に
帰り家族にこの話を伝えました。父は始
めから、錯覚だと言っ取り合いません。
でも、F・G氏の話が、妹の頬には引っ
掻き傷があったよというところまできた
ら、母親の顔色がサツと変わり、その場
に気絶してしまいました。

